

## 【論文】

江津市では社会福祉法人の経営する総合病院が存在しているものの、医師・看護師不足、救急医療、周産期医療等の提供体制が危機的な状況です。江津市の大きな地域課題となっているこの地域医療課題に対する自治研活動としてワークショップを起点に展開した取り組みを、今後の展望も含め実践報告します。

# 地域の課題解決につながる動きを創る自治研活動 — ワークショップを活用した可視化による思いの共有からはじめる取り組み実践 —

島根県本部／江津市職員労働組合 植田 紘司

## 1. はじめに

### (1) 江津市の概況

#### ① 市の概況

現在の江津市は、2004年10月1日に隣接する旧桜江町と1市1町の合併により誕生しました。島根県の中央部よりやや西寄りに位置し、面積は268.24km<sup>2</sup>、人口は21,407人（2024年6月末現在）の島根県で最も小さな市です。平均気温が15℃と温暖で、年間降水量1,500mm前後、積雪はほとんどなく温和な気候で、中国地方随一の大河江の川が日本海に注ぎ込む河口に位置しています。古くは江の川河口の港として、江戸時代には北前船の寄港地として栄えました。都野津層と言われる良質な粘土層に恵まれていることから、日本三大瓦の一つ、石州瓦の産地としても知られます。「来待（きまち）色」と呼ばれる赤瓦は1,200度以上で焼成されることで、寒さに強く、耐久性に優れ、全国に流通しています。市内には赤瓦の町並みが広がり、地元のアイデンティティーになっています。万葉歌人・柿本人麻呂ゆかりの地として知られ、人麻呂とその妻「依羅娘子（よさみのおとめ）」にまつわる歌の伝承があります。

このように往来と商いが盛んなまちだったことが、開放的で来る人をオープンに受け入れる土地柄につながっていると言われていています。夏はおよそ6万人の人出でにぎわう山陰屈指の花火大会「江の川祭り」が、秋には勇壮で華麗な「石見神楽」の舞いが地域を沸かせます。

#### ② 市が抱える課題

人口減少社会が進む中で、江津市ビジネスプランコンテストによる起業人材の誘致や、地域コミュニティの推進など特徴的な地域振興の取り組みとともに、近年の、企業誘致の成果と相まって、人口の社会減の傾向が緩やかになるなど、地域の課題解決に資する取り組みに一定の成果もみえてきています。また、2020年度から官民一体となった有福温泉再生プロジェクトに取り組み、空き施設のリノベーションや既存施設の高付加価値化の改修工事などを行い、リブランディングを進めています。

一方で、市にある総合病院の赤字問題をはじめ、医師・看護師不足、市が必要とする救急医療、周産期医療等の提供体制は危機的な状況です。また全国的に課題となっている地域包括ケアシステム構築へ向けての諸課題など、地域医療に関する多岐にわたる問題への対応が当市の大きな地域課題となっており、持続可能な地域づくりに対する大きな障壁として横たわっています。

#### ③ 江津市職員労働組合の概要

江津市は職員総数256人、労働組合員数は203人で、例年10月から体制が変わり、賃金確定闘争、春季生活闘争、人員確保闘争・ジェンダー平等推進、現業・公企統一闘争を経て、途中で体制を次年度へ引継ぎながら再び賃金確定闘争へと入っていきます。執行委員長を筆頭に、副委員長が2人、書記長1人、書記次長2人、財政部長が5役となります。そして執行委員が10人の計17人の執行体制です。

執行委員を組織部、賃金対策部、厚生部、教宣部、自治研部と役割分担し、それぞれ日々の取り組みを行っています。また、2022年6月より市職を辞して立候補した組織内議員の植田圭介市議を擁しています。

## 2. これまでの取り組みと今期の活動方針

### (1) 地域医療課題に対する活動の経緯

#### ① 2019体制の取り組み

2019体制では、地域医療の課題について市職員が考えるワークショップを2回実施し、どのように地域医療の課題を解決していくかをワンペーパーにまとめました。(以下「2019まとめ」)

■第1回ワークショップ 2018年12月11日 22人参加

■第2回ワークショップ 2019年1月15日 18人参加

#### ② 2021体制の取り組み

これまでの取り組みをレポートにまとめ「しまね自治研」へ提出しました。

#### ③ 2023体制の取り組み

「2019まとめ」の考え方をもとに、課題解決に対する行政内部や地域の機運の醸成と、課題の認識を深めるための取り組みを主に行いました。2022年に生まれた組織内議員とのつながりや関係機関と連携した取り組みへ発展させました。

■組織内議員と組合員との意見交換会 2023年2月2日及び3日

・組合員との地域医療・介護体制に係る課題についての意見交換をもとに、2022年12月市議会一般質問や地域医療対策特別委員会における質疑や確認内容の検討につなげました。

■組織内議員と組合員との意見交換会 2023年5月29日及び6月1日

・2023年3月に開催された地域医療対策特別委員会で情報提供があった総合病院の取り組みや地域医療体制に係る議会、行政、病院、市民における課題について意見交換を行いました。

■先進地視察・講演会への参加 2023年3月23日 雲南市立病院

・地域医療対策協議会の立上げ事例および、シンポジウムのあり方を視察しました。  
・関係機関の連携の必要性と、地域住民の支えを形にする運動の大切さを認識しました。

■地域医療講演会の開催(連合島根西部地協江津地区会議メーデーの企画として実施) 2023年4月29日

・雲南市立病院ボランティアの会事務局長による講演会を実施しました。  
・サンキューメッセージの取り組みを実施しました。

■「地域医療を守り育てる住民活動」講演会への参加 2023年7月1日 出雲ロイヤルホテル

・ほか自治体における地域医療にたいする住民活動の状況を情報収集しました。

### (2) 2024体制の活動方針

#### ① 考え方

2019体制でまとめた、江津市の地域医療課題解決のための取り組み内容は、そのあとの先進自治体の視察や講演会への参加により、実現可能な内容であることが理解できました。ただ、そのためには、行政内部の動きや、医療機関の変容、地域住民の地域医療に対する理解と主体的な関わりが必要です。そうした環境を整えるための取り組みを2024体制においては進めていくこととしました。

折しも、2024年4月から江津市の健康医療対策課に地域医療対策を担当する部署が設置され、職員は江津市の総合病院内で業務を行う体制がとられました。

#### ② 取り組みの方針

江津市の大きな地域課題となっている地域医療の課題について、まずは組合員を対象として、地域医療のあるべき姿と現状について考え、そのギャップとなる問題点を明らかにして、その問題点を解

決する取り組みをワークショップで可視化します。その取り組みについて、具体的な課題解決の動きをつくるための運動を長い視野を持って、できるところから展開していきます。

### ③ 取り組み内容

上記のような方針と情勢から、今期は次のような取り組みの計画をたてました。

- 「2019まとめ」による地域医療課題解決の取り組みを踏まえた組合員向けワークショップを実施すること
- 地域医療課題に関する組合員と組織内議員の意見交換会を実施すること
- 今回まとめ直す「地域医療課題解決の取り組み」をもとに当局と交渉を実施すること
- 組織内議員と5役の一般質問に向けた意見交換を実施すること
- 住民参加の地域医療を考える講演会を実施すること

## 3. 取り組みの経過と今後の方向性

### (1) 地域医療課題に対する活動の経過

#### ① 職員ワークショップ 2024年4月18日 11人参加

##### ■ ワークショップの設計

- ・ 目的の設定

地域医療の理想像と現状を共有し、今後どのような活動が必要かを考えるなかで当事者意識を持つこと

- ・ 目的達成のために必要な材料

材料①：当事者意識をもってもらうために、参加者がフラットに意見を出し合える場にする。

材料②：これまでの取り組みとの連続性を持たせるため2019自治研活動でまとめたシートを利用して考える。

材料③：理想の実現のためにどんな動きが必要かをみんなで考える。

- ・ テーマの設定

地域医療の課題解決に必要な取り組みをどのように進めるか。

- ・ 当日の説明内容

「これまで、自治研活動として考えてきた地域医療課題について、地域医療のあるべき姿と、今の姿について明らかにし、そのギャップについてみんなで考えます。今回は2019自治研活動でまとめたものを題材にみなさんの意見をお聞きします。」

##### ■ ワークショップの内容

- ・ 設問①：自己紹介・最近あったうれしかったこと
- ・ 設問②：江津市の地域医療に関するイメージを一言で
- ・ 設問③：「2019まとめ」の良い点、ユニークな点
- ・ 設問④：「2019まとめ」の疑問点、実現が困難な点
- ・ 設問⑤：実現のためにまず取り組むべきこと



当日の様子



当日の様子

**安心した生活を支えるための  
地域医療のあり方を考える**



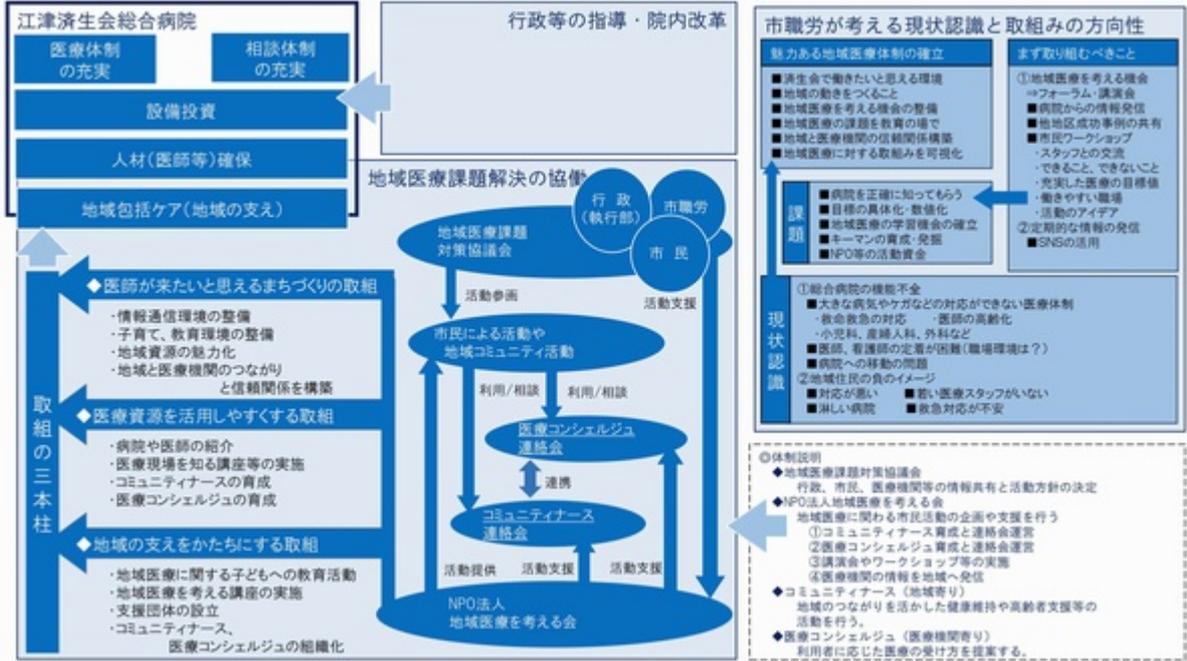
2024 江津市職員労働組合 自治研発表

**江津市の地域医療を考える  
江津市職員ワークショップ** 4月18日(木) 17:45~18:45

<p><b>主旨</b> これまでも、自治研活動として考えてきた地域医療課題について、地域医療のあるべき姿と、今の姿について明らかにし、そのギャップについてみんなで考えます。今回は2019自治研活動でまとめたものを題材にみなさんの意見をお聞きします。</p>	<p><b>進め方</b> 5人程度の小グループ内で意見交換をします。全体への発表やグループの取りまどめをみなさんにやってもらうことはありません。お気軽にご参加ください。</p>
<p><b>会場</b> 江津市役所 多目的ホール</p>	<p><small>※専門知識も必要ありません。</small></p>
<p><b>申込合</b> 〒696-8002 江津市江津町1016-4 江津市職員労働組合 事務局 小川 恵 TEL: 0800-52-1122 (内線#902) E-mail: qt1122@ircus.ocn.ne.jp</p>	<p><b>締切</b> 4月12日(金) 事務局までご連絡ください</p>

実施の案内

■2024ワークショップのまとめ（「2019まとめ」への追記）



② 組合員と組織内議員との意見交換会 2024年5月13日及び5月14日

組織内議員の活動報告とともに、地域医療をはじめとする地域課題について意見交換を行い、ワークショップに参加した組合員からも有意義な意見が出されました。また、別で計画していた5役との意見交換会もかねて実施しました。6月議会では、この意見交換会をもとに一般質問を行い、執行部から地域医療に対する市の考えを確認することができました。

③ 担当課長交渉 2024年6月10日 健康医療対策課長 同席：人事課長、人事課長補佐

これまで、江津市職員労働組合が展開してきた自治研活動の経過と、とりまとめた地域医療課題解決のための取り組みの提案（上述の「■ワークショップのまとめ」を用いて説明）を行いました。担当課長からは、「是非、一緒に課題に対する取り組みを進めたい」との回答を引き出しています。

④ 担当者協議 2024年7月12日 地域医療対策係長

ワークショップのまとめと、担当課長交渉の結果を経てさらに活動を進めていくために行政の担当者として協議を行いました。協議においては担当者も地域住民とともに地域医療について考えるシンポジウムの開催を進めていくことの確認と、江津市の地域医療を取り巻く課題を共有することができました。

■担当者との協議で共有された現状と取り組むべき課題（概要を掲載）

- ・地域の医療に携わる医療関係者のスキルや姿勢のレベルは高いが地域の人に知られていない。
- ・若い医師を支えることのできる医療スタッフがそろっている。
- ・江津でも医療従事者が集まったカジュアルな意見交換や交流の機会を持つ取り組みが始まっている。
- ・医師の高齢化と指導医が不足している。
- ・近隣の医療機関との連携が必要だが、有機的な連携となっていない。
- ・人員不足によって業務オペレーションの改善が必要になっている。
- ・周辺の医療機関と意見交換や情報共有できる仕組みを構築する必要がある。
- ・地域と医師がマッチングするための医療機関の魅力化を行う必要がある。
- ・地域のニーズに応えた地域医療体制を構築する必要があるが、地域住民から意見をもらう機会がないことで、本当の意味での地域のニーズが把握できていない。まずは、地域住民の声を聞くところから始める必要がある。

自治研（研修）自治研は地域医療... 自治研活動：江津市の地域医療課題を考える

健康医療対策課長 交渉



- 今日の交渉までの経緯
【2019体制】
2018.12.11 地域医療を考える組合員対象の第1回ワークショップを実施
2019.1.15 地域医療を考える組合員対象の第2回ワークショップを実施
【2021体制】
2021.6.15 これまでの取組みをレポートにまとめてまね自治研へ提出
【2023体制】
2023.2.2 組織内議員との意見交換会
2023.3.23 先進地視察（雲南市立病院）
2023.4.29 地域医療協議会（江津地区メーダの特別講演として実施）
【2024体制】
2024.3.28 自治研部でこれまでの取組みの確認と今後の活動内容を協議
2024.4.18 地域医療を考える組合員対象の第3回ワークショップを実施
2024.6.6 健康医療対策課長との交渉内容について執行委員会で確認
健康医療対策課長交渉

6月10日（月）、地域医療課題に関する取組みについて健康医療対策課長と交渉の場を持ち、組合が考える課題解決の取組みについて提案しました。

- 【組】…組合 【課】…健康医療対策課長
【組】 組合では、労働運動だけでなく江津市の地域課題解決のために何かできるのかを考える自治研活動を行っている。地域医療課題の自治研活動として、2019執行体制のときにワークショップを行った。今期においても先回ワークショップを行い意見をまとめている。（裏面参照）
組合としては、ここで提案している講演会やフォーラムを市と一緒に実施したいと考えている。今後、一緒にやりたいと思う。地域医療に対する取組みを行っていく意思がある。
【課】 是非、一緒にやりたいと思う。まず、フォーラム等で地域の課題をみんなて理解するところから始めるべきだと考えている。ただ、そちらにも負担がかかることだと思うがどうか。
【組】 承知のうえで提案している。
【課】 実施するタイミングとしては、関係機関等がそのような状態になっていないので、今すぐフォーラム等を実施することは難しいが、引き続き協議しながら進めたいと考えている。

『是非、一緒に課題に対する取組みを進めたい！』

担当課長交渉教宣紙

プロセス デザインシート【地域医療課題シンポジウム】

Table with 2 columns: 日時, 会場, 主催 and 未定, 江津市総合市民センター, 江津市. Includes 参加者 and 共催 information.

SI1: 目的の設定
SI2: 目的達成のために必要な材料
SI3: 会のテーマ
SI4: 進め方 (Includes a detailed agenda table with columns for 期会, シーン, 担当, 内容, 参加者の動き, 時間)
SI5: 準備品の確認

担当係長協議資料（地域医療シンポジウム企画書）

(2) 今後の方向性

- ① 提案した「地域医療シンポジウム企画書」を原案として、今後実施する方向性で市の執行部と協議しながら取り組みを進める。
② 「地域医療シンポジウム」の前段で、各地区で地域住民を対象とした小規模のワークショップを行い、地域医療を支える地域住民の機運を醸成しながらも、地域のニーズを可視化する。
③ 可視化された地域のニーズをもとに「地域医療シンポジウム」の内容を再検討し、実施に向けた準備を進める。
④ これらの取り組みは、市の担当課とともに江津市職員労働組合も一緒に進めていく。

4. まとめ

労働組合は、要求・交渉によって組合員の処遇改善を実現していくことが重要であり、その存在意義でもあります。そのなかで、自治研活動は、組合員の処遇改善に直結する取り組みではありません。しかし、公務職場を担うわれわれ組合員は、目の前の担当業務に限らず、地域の現状を知り、課題解決の具体策を検討し、理想の地域像に近づくための取り組みは、行政を担う組合員だからこそ、より効果的にできる活動でもあります。それは普段行っている業務の最終的な目的と同義であり、行政職員が存在意義です。

今回の自治研活動では2019体制でまとめた地域医療課題解決の具体策を実現するために、再度、組合員のワークショップで当事者意識を醸成しながら、市の執行部と協働で課題解決の取り組みとなる次の一歩を踏み出した展開となりました。今回のワークショップにおいて、組合員から「江津市の地域医療が良いと言える具体的な目標値を設定し、だれもがわかる判断基準が必要」という発言がありました。地域住民のニーズを明らかにし、それがどのように、どの程度まで達成しているのかを可視化しながら取り組みを進めていく大切さが、この発言に提示されています。このことは、執行部の地域医療対策係

長との協議により課題共有した内容と同一です。これまで行政では、事務事業の成果を可視化し、KPI等でその成果を地域住民に提示することを行ってきており、こうした行政の考え方や手法は、自治研活動を進めるうえで取り組みの補強につながっています。

このように、市の業務を行って培った知識やスキルを活かした組合員の自治研活動は、地域課題の解決に資する大きな取り組みとなることは明らかです。市の行政においても人員不足が進むなかで、担当部署だけで大きな地域課題解決に向けた取り組みを行うことには限界があります。組合員がそれぞれの業務で培った知識やスキルを結集し、担当部署とともに地域の課題解決につながる動きを創る自治研活動こそ、これから進めていくべき自治研活動だと実感した今回の取り組みでした。